

研究課題 (テーマ)		ダ・ヴィンチ祭 県大・総合衛生学院 第2回合同企画 「工学」×「看護」の実施	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者			
ダ・ヴィンチ祭 実行委員会		委員長	宮本泰行
研究結果の概要			
<p>&lt;全体の概要&gt;</p> <p>第22回ダ・ヴィンチ祭において、昨年に引き続き、総合衛生学院と県立大学との学術的および人的交流によるコラボレーション企画「体験しよう 笑顔を作る 工福看」を開催した。平成31年の看護学部開設を踏まえて、前身となる両校の学生による主体的な運営を進めながら、学生のリーダーシップや社会性（コミュニケーション能力）の向上と、新学部開設後の入学生となりえる現小・中学生に対しても、県大への興味を惹く魅力的な企画作りを目指した。</p> <p>&lt;準備状況&gt;</p> <p>県大および総合側からリーダーをそれぞれ1名採用し、学生相互の協力体制の協力体制を構築した。</p> <p>両校の学生主体により5月23日のキックオフミーティング（総合衛生学院で実施）を皮切りに、数回の準備打ち合わせを行った。</p> <p>各企画にはパネルや配置等に統一感を持たせた上、来場者へのホスピタリティー向上や安全性確保に関しても予算を活用した。</p> <p>&lt;結果&gt;</p> <p>結果（プログラムによる成果）は以下のとおりである。</p> <p>(1) 総合衛生学院から1企画（学生18名および教員1名参加）、県大から4企画（4研究室より学生8名参加）、および事務局が参加した。本助成金を活用して、各出展には実施に必要な資金面での支援を行うことができた。</p> <p>(2) 参加学生には、来場者への平易で興味を惹く解説を実施してもらった。その結果として、当日の印象やアンケート結果では、来場した小・中学生のみならず、保護者からも好評であった。</p> <p>(3) 計1634名の来場者が集まった。これは第22回ダ・ヴィンチ祭の全企画の中で1番多い人数であった。</p>			
今後の展開			
<p>好評につき、次年度の第23回ダ・ヴィンチ祭においても、継続して総合衛生学院とのコラボ企画を実施すべく、本プログラムに申請予定である。今年度の実施状況、反省点、および当日の写真等は今後の参考資料としてまとめてあり、またキャンパスの異なる両校学生による準備の円滑化や事務仕事のスリム化などにつながる改善案もいくつか挙がっている。次年度においても、さらに来場者の満足度が高い特別企画を目指して、実施準備を進めていく予定となっている。</p>			